

女性会だより

女性会活動紹介
☆クリーンデー

女性会会長 村上孝子

只今、三十二人の会員で活動しています。お勤めしながらのプリティーマン。人生の先輩でもある光年部の二つに分かれての活動もしています。今回は全体で活動している事を御紹介します。

三原市女性会連合会の中に「地球にやさしい三原」推進協議会があります。これは、私達が年二回、県道沿いのゴミ拾いをしていくクリーンデーがその事業です。上・中・下組の地区に分かれてやっています。



集まるゴミの量は、前に比べて減っていますが、私達だけでなく、町内、子ども会と深の中の団体の方々もやって下さっているからだと思います。

見た目は、ゴミがない様に見えるますが、歩道との境には、たばこの吸いがらがあちらこちらに、草むらの中、水路の中に、あき缶、おべんとうのパック、お菓子のあき袋と見えない所にかくれています。マナーの悪さを感じる時です。

たばこの値上がりには関係ないのか、火のついたたばこが、車の窓から「ポイ」、登下校の子供達にケガのない事を願いながら拾っています。

道路はゴミ箱ではありません。ゴミは、自分の手でゴミ箱にとお願いしたいものです。

短歌・俳句・詩

中組 仲峠講 竹内ひろみつ

天も無く地も無く雪のつもりゆき
無垢なる景色心洗われ



バレンタイン濃き紫のシネリア
美しき花今年も贈られ

SFの世界を覗く惨さかな
人喰いバクテリア実際に見て

「子どもの眼差しから
学んだこと」

上組 中山恵子

日々、何気なく過ごしている日常の中には、大人が見逃しがちなことが沢山あるのだな……息子を見てみると、ふと発見することがあります。

家から幼稚園までの道を歩きながら、そこに毎日何かしらの出逢いがあります。

ある日の帰り道。時々立ち止まっては小石を拾ったり、小枝、葉っぱなどを集めては、それらを大事そうにポケットへ入れてニコニコしながら歩いています。家に着くまでには、集めた「お宝」でポケットがズッシリと重くなっていました。

「それ、拾ってどうするん？」と、尋ねると、

「これとこれをあわせて○○○っていうのを作るんよ！」
この、○○○というものは：何ともヘンテコリンな名前ですが、息子にしか解らない、勝手に彼が名付けたものなのですが、その○○○を語る彼の目は、実に生き生きと輝いていたのです。私はその時、その得体の知れない○○○に命は吹き込まれたかのように、ムクムクと湧き出る存在を感じました。



視点を少し変えるだけで、全てに宿る目に見えないもの、聖なるものへの感性のスイッチが入った！そのような感覚に触れることが出来た瞬間でした。

「そうそう！この感覚だ！こんなワクワクした瞬間が自分にもあったなあ。」

息子を見ていて、ふと小さかった頃の感覚を思い出すことが出来ました。

大人の、自分の感性だけで判断せず、子どもや自然からのベクトルを受け入れることで、大人が忘れかけていた豊かさのよさなものを感じるヒントがそこにあると気付かされました。息子を通して、「大切なものを思い出す時間」という思いがけないプレゼントを貰った気分です。

子どもの眼差しから、またひとつ素敵なことを気付かせてもらい、学ばせてもらいました。ありがとうございます。

三原市の
高齢者福祉サービス③

三原市高齢者福祉課

◇家族介護者交流事業

介護者の心身の元気回復（リフレッシュ）を図ります。
◇対象 要支援二以上の人を在宅で介護している家族の人



◇家族介護者慰労金支給事業

◇対象 重度（要介護四、五）の市民税非課税世帯の在宅高齢者（被介護者）が支給申請前一年間介護保険サービスを受けなかった場合で、その人を現に介護している家族
◇支給額 一〇〇、〇〇〇円

◇敬老会助成事業

地域において実施される敬老会行事に対して、実施する団体へ運営費の一部を助成いたします。

◇敬老祝金

市内に居住する高齢者で該当年齢の人に九月頃に敬老祝金を支給します。

◇金額

- 七七歳 一〇、〇〇〇円
- 七八歳 一〇、〇〇〇円
- 一〇〇歳以上 三五、〇〇〇円

★該当される人には高齢者福祉課から連絡します。

◇高齢者日常生活用具給付事業

心身の機能低下に伴い、防火等の配慮が必要な方に電磁調理器・火災報知機・自動消火器を給付します。

◇対象 おおむね六五歳以上の低所得の寝たきり高齢者、ひとり暮らし高齢者等

◇利用料 生計中心者の所得に応じ〇円～全額負担

◇生活管理指導員派遣事業

社会適応が困難な高齢者に対して、訪問により日常生活に対する支援、指導を行います。

◇対象 介護保険の認定を受けていない、市民税非課税世帯の在宅のひとり暮らしの高齢者、高齢者のみの世帯で、社会適応が困難な人

◇利用料金 一時間一六〇円

深町子どもを守る会

子どもを
みんなで見守りましょう



深小の子どもは
○午後四時頃 下校します。
※日によって、異なることがあります。

○近くで、遠くで、みんなで見守りましょう。
○あいさつ、声かけをしましょう。

ピッコロだより
(知的障害者授産施設)

ハクサイ・キャベツの出荷は中旬以降



厳しい冬も月日が経てば春がやって来、季節の移り変わりを感じられるこの頃です。春の陽気と共に気持ちも身体も軽快になります。

ハウスの中は花苗、野菜でいっぱいですが、ハクサイ、キャベツの出荷は中旬以降に予定しています。花苗は、サルビア、ペゴニア、ミムラス、ロベリア、メランポ、ペチュニアなどです。花苗、野菜など、今年度は利用者さん達の希望の種蒔きもし、生長を楽しみにしています。変わった苗があるかも知れません。楽しみにお待ち下さい。

◇生活管理指導短期宿泊事業

一時的な宿泊サービスを行い、生活指導・体調調整等を通じ、介護予防・生活支援を行います。

◇対象 六五歳以上の要介護高齢者で、介護認定で非該当と判定された社会適応が困難な人

◇利用料金 施設が定める実費

◇その他

■高齢者世話付住宅入居者対象の事業
☆シルバーハウジング生活援助員派遣事業

※相談先

- 三原市高齢者福祉課 電話 67-6055
- 東部地域包括支援センター 電話 61-4410

(完)

三年間の思い

藤原 紗耶

期待と不安を胸に中学校の門をくぐったあの日が、つい昨日のことのように思い出されます。クラブはソフトテニス部に所属し、毎日の練習を仲間と一緒に頑張ってきました。どんな時もお互いを信じ支え合う大切さ、最後まで諦めない心の強さを学ぶことができました。キャプテンとしてチームをまとめるのは簡単ではありませんでしたが、自分なりに頑張ることができたとよい経験になりました。

学校生活では、二年生の時の修学旅行、三年生最後の体育大会、文化祭、校外学習、思い出せばきりがなほほど様々なことがあった三年間。私は学校に行くのがとても楽しかったです。毎日を楽しく感じることができたのは、たくさん友達がいれたからだと思います。悲しい時もそばに友達がいてくれるだけで元気になれたし、笑顔になれました。私は、多くの人に支えられているのだと改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。

この三年間を第一中学校で過ごせたこと、そこで出会えた友達とのかけがえのない思い出が、私の一番の宝物です。いつも私と一緒にいてくれたみんな、ずっと笑っていられたのは、みんなのおかげです。大好きなみんなと過ごせて、本当によかったです。中学校で過ごした思い出は、一生忘れません。ありがとうございます。



野球部

中重 恵介

僕は中学校三年間、野球部に入っていました。野球を続けてよかったと思っただけは、県大会で二位になれたことです。自分は、県大会に出場できたことだけでうれしかったけど、その上位にもなれたのでとてもよかったです。

また、野球を二年間続けてきて、逆に嫌だったこともありましたが、それは冬の練習です。毎日坂を走り回られてしんどかったし、走った後にも筋トレや地味な練習ばかりで苦しいだけ。全然楽しくなかったから、冬はまともにボールに触らせてもらえず、楽しくなかったです。

しかし、この苦しい練習を続けたからこそ足腰が強くなり、筋肉もつきました。バッティングの飛距離も伸びたし、足も速くなりました。苦しい練習のおかげで、県大会三位になれる実力がついたのだと思います。だから、今では冬の練習で坂を走ったことをよかったと思っています。

野球部で過ごした三年間は、僕にとっても充実した三年間でした。

三年間を振り返って

村田 茜

二年間を振り返ってみると、あつという間違ったなと一番に思います。

中学校に入った私の心は、まだ小学生の延長のままでした。何事にもあまり一生懸命になれず、ただなんとなく毎日過ごしていました。「努力しないといけない」と思ったのは、中学二年生の半ばくらいです。そこから段々と物事に対する意識が変わっていき、様々なことで成長できたと思っています。

しかし、クラブの面でも、勉強の面でも、「あの時こうしておけば良かったな」と思うことや、後悔する気持ちになることはたくさんありました。次は失敗しないようにしようと思っていたら、あつという間に三年間が過ぎてしまいました。様々なことを通して、自分の中で考えたり気づいたりしたことは、今の私へと成長できたものになっていると思います。

これから中学校を卒業して新しい環境へ進んでも、中学校生活で成長できたことを生かして、将来自分が後悔したり困ったりしないように、一生懸命頑張っていくつもりです。

三年間の思い出

増田 大将



僕にとつて三年間で心に残っていることは二つあります。

まず一つ目は、一年生の時の修学旅行です。九州に行くという理由で、嫌だな、他の所がいいなと思っただけで、理由は、それまで行っていたスペースワールドにも行かないし、一日目が民宿だったからです。しかし、その民宿の方は、僕たちを温かく迎えて下さったので、うれしかったです。自由行動の時も、班のみんなと楽しく過ごせたので良かったです。

二つ目は、体育大会です。最後の体育大会は大成功でした。三年生になると、ソーランと四段タワーがあったので大変でした。ソーランは踊りを覚えるのが難しく、先生に何度も教えていたのですができるようになりました。一番の問題は、四段タワーでした。僕は最初、上から一段目でしたが、交代しました。練習では一度か二度しか成功していませんでした。本番に成功できるか心配でした。本番でも一回目は失敗。しかし、二回目に成功できたとき、とても感動しました。僕は、この三年間でたくさんの人と友達になれました。その友達と学校生活を送れて良かったです。

卒業文集

楽しかった三年間

小林 耐智

僕にとつて中学校生活には、一年生、二年生、三年生とそれぞれ違う楽しさがありました。

一年生の頃は、小学校から中学校へ入学して、学校生活も友達の数も変わりました。僕は一年生の合宿でまだ話もしていない同級生と一泊を過ごし、友達をたくさん作ることができました。とても楽しい思い出になりました。

次に二年生では、修学旅行が一番印象に残っています。九州に行き、初日は「ほんなもん体験」をして、僕たちの班は海で釣りをしました。十匹くらい魚を釣り、魚が釣れるとみんな「やったー。やっとなれた。」

など言い、とても楽しく海釣りができました。その後、民宿に泊まりました。そしてほんなもん体験で釣った魚を、僕たちが泊まった民宿の方に天ぷらにしても

らい、とてもおいしかったです。そして、二日目に班ごとの自由行動をとり、班のみんなと楽しく過ごしました。とても思い出に残り、一年生の生活で一番楽しかったです。

次に三年生です。中学校生活最後の年で僕が一番思い出に残っていることは、三年一組のクラスのみんなと一年間、中学校生活を送れたことです。最後に「SHARIT」のみんな、ありがとうございます。

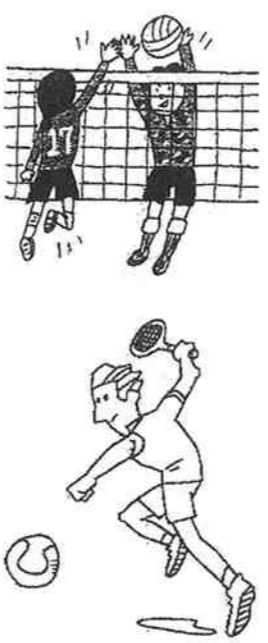


三年間、ありがとう

小川 真奈

長かった中学校生活もあと少しで終わろうとしています。この三年間、私は部活動と勉強を両立することを目標にして頑張りました。そこで私は大切な仲間をつくることができました。けんかして泣いて、大変な時もありました。しかし助け合い、支え合い、今ではとても良い仲間です。

部活動はバレー部に入りました。最初はとても不安でした。だんだんと慣れていくうちに、4人の大切な人達に出会い、私はその日から学校が楽しくなりました。次第に友達が増えていきました。二年生になり、キャプテンとしてやっていく上で、辛いこと、困ったことがありました。そんなときはいつも二年生のみんなが支えてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。そして、小中学校で一緒にいてくれた友達とは、思い出がありすぎます。その友達がいたからこそ、私は毎日楽しかったです。けんかをした時も辛い時も、いつも私の周りにいてくれた仲間には、感謝の気持ちと「大好き」という気持ちでいっぱいです。今の自分がこうして生きていくことも、みんながいるのおかげです。この先みんながバラバラになってしまうのは、とても悲しくて悔しいです。いつも一緒にいてくれた五人は誰にも渡したくないです(笑)。バラバラになっても絶対忘れません。今まで本当にありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。



中学校で学んだことを

砂田 岳大

この三年間、特に印象に残る出来事も起きず、何となく過ぎてきました。振り返ってみると、何かあつという間でしたが、考えてみれば三年間は長かったような気がします。

一年生、初めての部活動。新しい学校生活が始まり、どの部に入ろうか悩みながら、テニス部に入学しました。先輩も同級生も、初めて会う人ばかり。でも、日がたつうちに、一緒に練習し、一緒に話し、一緒に遊び、一緒にしかられ……。不思議です。同じ場所、同じことをしているだけに、いつの間にかお互いを許している。夏休み、冬休みと、あつという間に時間は過ぎていきました。

二年生、新しいクラスになり、学校生活にもかなり慣れてきました。月日はたち、中学生で最初で最後の修学旅行。班別行動のときには、道に迷って集合時刻に遅れてしまったけど、それはそれで楽しかったです。そして、三年生。部活動では最上級生としてみんなを引っ張っていく存在。今思えば、先輩や先生には迷惑ばかりかけてきたと思います。最上級生としての実感が足りなかったと感じています。

いろんな人に迷惑をかけた三年間でした。しかし、この中学校生活で学んだことを、これから始まる新しい生活に活かしていきたいと思っています。

クラブの思い出

佐藤 令 彰

僕はこの三年間、サッカー部に所属していました。一年生の頃は、サッカーをするのが初めてで何も分からず、みんなの動きを見ていました。初めて試合に出た時、どんな動きをするかも分からなくて、みんなに合わせるだけでした。二年生の頃には、先輩達とあまり合わなくて、自分で練習をしていました。三年生になるとサッカーも上達し、顧問の先生も変わりました。新しい顧問の先生はとにかく練習が厳しくついていくことができて、最初はとても辛かったです。でも、その練習を積み重ねていくうちに体力もついていくようになり、サッカーが楽しくなっていました。試合でもいい結果が出せるようになっていきました。

試合での僕のポジションはバックでした。バックはとにかく相手の攻撃を防がないといけません。防ぐには、みんなでコミュニケーションをしっかりと取ることが大切でした。練習でよかったことは、体力を身につけたことだけでなく、みんなとも仲良くなったことです。それによってサッカーがとても楽しくなりました。

僕は、この三年間で三年生のときが一番楽しかったです。先生のおかげでチームも強くなったし、今まで以上にチームワークも深まったので、よかったですと思います。

最後に、先生、ありがとうございました。



三年間の思い出

窪田 快



僕の二年間の思い出はたくさんあります。一年生の時の一番の思い出は、合宿です。福山少年自然の家に行きました。合宿では、カレーを作ったりキャンプファイヤーをしたりして、とても楽しかったです。

二年生の時の一番の思い出は、修学旅行です。九州に行きました。釣りをしたり、阿蘇山に登ったり太宰府天満宮に参ったりして、思い出に残っています。三年生の時の一番の思い出は、校外学習です。みろくの里に行きました。座禅を組んだり、抹茶をいただいたり、みんなでカッターを漕いだりした楽しかった思い出は忘れられません。

三年間全体を振り返ってみると、思い出に残っているのは、体育大会と文化祭です。体育大会では、短距離走やリレー、綱引きなどをがんばりました。また、三年生はソーランを踊りました。とても暑い中だったけど、踊ってよかったです。文化祭では学年合唱を歌ったり、ミュージカルを見たり吹奏楽部の演奏を聴いたりしてとても楽しめました。僕は、この二年間の中でたくさんのお話を学びました。高校に進んでも、そのことを忘れないでがんばりたいです。

最後まであきらめない

宮 永 真 歩

私にとって三年間の中で一番心に残っていることは、クラブ活動です。

私は、二年間バスケットボール部でした。同じ部活の仲間と共に汗を流し、励まし合いながら、協力することの大切さを学びました。その中で一番感動した出来事は、オール関西という大きな大会で県予選大会に勝ち進むことができたことです。しかし、一回戦で敗れてしまいました。その後、私達はミーティングをして、今の私達に何が足りないかを話し合いました。それは、「最後まであきらめない」という意外な結論でした。自分達は、一生懸命戦っているつもりでも、相手チームの方が私達よりも一回りしていたのでしよう。それからの練習は、この大会で学んだことを生かした

ハードなものへと変わりました。

三年生最後の大会である市内大会、南部大会、ともに三位を勝ち取ることができました。よい成績を取ることができたのは、あの敗れた大会で学んだことを生かした結果だと思えます。以前まではどうしてそんなにハードな練習が必要なのかという気持ちも少しありましたが、今ではそんな練習も先生やコーチの優しさであると実感しています。

二年間で学んだことは数え切れない程ありますが、その中でも、「最後まであきらめない」ということを常に心に置き、これからは頑張っていこうと思います。



三年最後の喜び

河原 美穂



私が中学校生活で一番がんばったことは、クラブです。私は三年間、吹奏楽部でがんばってき、協調性や仲間との絆などたくさんを知ることができました。その中でも一番心に残ったことは、三年生の時のコンクールです。

私は三年生になって後輩が二人できました。二人を育てるのは大変でしたが、よい経験になりました。吹奏楽部の一番の目標は、コンクールで金賞を獲ることです。私が二年生の時、コンクールで銅賞を受賞して

生徒 深 中



みんなとても悔しい思いをしました。だから、今年こそ絶対に金賞を獲ろうと目標を決め、みんなががんばりました。

夏休みになると、毎日一日練習でも厳しい日が続きました。講師の先生方が来てくださり、いろいろなアドバイスを下さったのでとてもためになりました。完成に近づくとつれて、みんなだんだん上手になっていきました。

そしてコンクール当日、二回目ということもあって緊張しないと思っていましたが、ステージに上がってライトを浴びると手が少し震えていました。本番では練習で身につけた力を発揮することができ、無事に終わりました。

結果発表の日、先生と二年生全員で広島の会場へ結果をききに行きました。会場に入ると不安な気持ちになりました。結果は部長が前に出て受賞するようになっています。私たちは席ですと折っていました。次々と他校の吹奏楽部が賞を獲っていききました。そして私たちの番になりました。三原市立第一中学校、ゴールド、金賞。」この声を聞いた時は驚き、うれしさで涙が出てきまし

た。金賞を獲ることができたのでみんな笑顔で帰ることができました。

私は吹奏楽部に入って、仲間との絆を深めたり感動したりなど、様々な経験を積み重ねることができました。吹奏楽部に入って、本当に良かったと思っています。

二人の後衛

馬 越 香 帆

私が中学校生活で一番頑張ったことは、部活動のソフトテニスです。一年の時に始め、二年生になるときつかった練習にも慣れてきて、先輩とペアも組みました。私は前衛でした。先輩たちのように上手くできなくて、試合のときには迷惑をかけてばかりでした。先輩が引退すると私のペアの後衛が変わりました。組んだばかりのときは、迷惑をかけてしまわないかと不安がありました。けれど、ペアはアドバイスをしたり励ましてくれたりと、私のために色々考えて努力してくれていたため、私もペアのために頑張ろうと思えました。

三年になると、新しいペアとプレーする試合にも慣れてきました。もともと、慣れたといってもペアには迷惑をかけてばかりでした。三年生最後の市内大会、私は、また負けて帰るんだろうなと思っていました。結果は二位。

私はとても嬉しかったです。こんな成績を残せたのは、私のペアが私の後ろで倒れるまでボールを追って私が緊張していると「大丈夫」「絶対できるよ」と声をかけてくれ、一生懸命頑張ってくれたからだと思います。

私は一人の後衛からたくさんのお話を学びました。私自身は二人の役に立てたかわかりませんが、テニス部に入ったことで二人に出会え、強くなることができました。本当に感謝しています。みんな、ありがとうございました。



色々な人に感謝

池田 悠

僕は三年間バスケットボール部に所属しました。一年生の時は、同じ学年で初心者ばかりでした。だから、それが少しコンプレックスにもなっていました。先生やコーチ、先輩方に助けられて、上達していききました。

最初の四ヶ月は地獄のような毎日でした。ランニングトレニングや筋トレなど毎日飽きるほどやらされました。しかし、それが先につながると思っていたので、毎日休まず頑張りました。それに先輩も優しい人たちがばかりで、たくさん励ましの声をかけてもらいました。

一年生の時は一つ上の先輩がとても上手だったので、試合に出る機会がありませんでした。それでも先輩たちのプレーをよく見て、盗めるものは盗もうと思っていました。だから先輩たちにはとても感謝しています。特に石原キャプテンにはお世話になりました。

自分たちの代になって先生が替わり、コーチもついて下さり、とてもいい環境が整いました。しかし、僕たちの実力不足で試合には勝てず、一年生と二年生が混ざったスタメンでした。コーチもしっかりと指導して下さいましたが、最後までいい成績を残すことは出来ませんでした。

しかし、僕は全く悔いがありません。それは三年間で自分がとても成長できたと思うからです。その成長は色々な人の助けがあったからこそです。だから助けて下さった顧問の先生や、コーチ、先輩方に「ありがとうございました」と言いたいです。そして、この経験を今後の人生に活かしていきたいと思えます。